

1:12 私たちの間ですでに確信されている出来事については、初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、多くの人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。1:4 それによって、すでに教えを受けられた事ながら正確な事実であることを、よくわかっていただきたいと存じます。1:5 ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。1:6 ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行っていた。1:7 エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。1:8 さて、ザカリヤは、自分の組が当番で、神の御前に祭司の務めをしていたが、1:9 祭司職の習慣によって、くじを引いたところ、主の神殿に入って香をたくことになった。1:10 彼が香をたく間、大ぜいの民はみな、外で祈っていた。1:11 ところが、主の使いが彼に現れて、香壇の右に立った。1:12 これを見たザカリヤは不安を覚え、恐怖に襲われたが、1:13 御使いは彼に言った。「こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。1:14 その子はあなたにとって喜びとなり楽しみとなり、多くの人もその誕生を喜びます。1:15 彼は主の御前にすぐれた者となるからです。彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、1:16 そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせます。1:17 彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子どもたちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。」1:18 そこで、ザカリヤは御使いに言った。「私は何によってそれを知ることができましようか。私ももう年寄りですし、妻も年をとっております。」1:19 御使いは答えて言った。「私は神の御前に立つガブリエルです。あなたに話をし、この喜びのおとずれを伝えるように遣わされているのです。1:20 ですから、見なさい。これらのことが起こる日までは、あなたは、ものが言えず、話せなくなりま。私のことばを信じなかつたからです。私のことばは、その時が来れば実現します。」1:21 人々はザカリヤを待っていたが、神殿であまり暇取るので不思議に思った。1:22 やがて彼は出て来たが、人々に話すことができなかつた。それで、彼は神殿で幻を見たのだとわかつた。ザカリヤは、彼らに合図を続けるだけで、口がきけないままであつた。1:23 やがて、務めの期間が終わったので、彼は自分の家に帰つた。1:24 その後、妻エリサベツはみごもり、五か月の間引きこもつて、こう言った。1:25 「主は、人中で私の恥を取り除こうと心にかけてられ、今、私をこのようにしてくださいました。」

1:39 そのころ、マリヤは立って、山地にあるユダの町に急いだ。1:40 そしてザカリヤの家に行つて、エリサベツにあいさつした。1:41 エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、子が胎内でおどり、エリサベツは聖霊に満たされた。1:42 そして大声をあげて言った。「あなたは女の中の祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。1:43 私の主の母が私のところに来られるとは、何ということでしょう。

1:44 ほんとうに、あなたのあいさつの声が私の耳に入ったとき、私の胎内で子どもが喜んでおどりました。1:45 主によって語られたことは必ず実現すると信じきつた人は、何と幸いなことでしょう。」

1:57 さて月が満ちて、エリサベツは男の子を産んだ。1:58 近所の人々や親族は、主がエリサベツに大きなあわれみをおかけになつたと聞いて、彼女とともに喜んだ。1:59 さて八日目に、人々は幼子に割礼するためにやって来て、幼子を父の名にちなんでザカリヤと名づけようとしたが、1:60 母は答えて、「いいえ、そうではなくて、ヨハネという名にしなければなりません」と言った。1:61 彼らは彼女に、「あなたの親族にはそのような名の人はいりません」と言った。1:62 そして、身振り父親に合図して、幼子に何という名をつけるつもりかと尋ねた。1:63 すると、彼は書き板を持って来させて、「彼の名はヨハネ」と書いたので、人々はみな驚いた。1:64

すると、たちどころに、彼の口が開け、舌は解け、ものが言えるようになって神をほめたたえた。**1:65** そして、近所の人々はみな恐れた。さらにこれらのことの一部始終が、ユダヤの山地全体にも語り伝えられて行った。**1:66** 聞いた人々はみな、それを心にとどめて、「いったいこの子は何になるのでしょうか」と言った。主の御手が彼とともにあったからである。**1:67** さて父ザカリヤは、聖霊に満たされて、預言して言った。**1:68** 「ほめたたえよ。イスラエルの神である主を。主はその民を顧みて、贖いをなし、**1:69** 救いの角を、われらのために、しもベダビデの家に立てられた。**1:70** 古くから、その聖なる預言者たちの口を通して、主が話してくださったとおりに。**1:71** この救いはわれらの敵からの、すべてわれらを憎む者の手からの救いである。**1:72** 主はわれらの父祖たちにあわれみを施し、その聖なる契約を、**1:73** われらの父アブラハムに誓われた誓いを覚えて、**1:74 75** われらを敵の手から救い出し、われらの生涯のすべての日に、きよく、正しく、恐れなく、主の御前に仕えることを許される。**1:76** 幼子よ。あなたもまた、いと高き方の預言者と呼ばれよう。主の御前に先立って行き、その道を備え、**1:77** 神の民に、罪の赦しによる救いの知識を与えるためである。**1:78** これはわれらの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、日の出がいと高き所からわれらを訪れ、**1:79** 暗黒と死の陰にすわる者たちを照らし、われらの足を平和の道に導く。」

はじめに

先週は、クリスマスに関するイザヤの預言のひとつを取り上げて学びました。

そして、イエスのご降誕が処女受胎による神の御力のしるしであり、神が生身の人間になられた神の愛のしるしであり、また神のご真実のしるしであることがわかりました。

今週も、引き続きクリスマスの準備について学びます。今回は、ザカリヤとエリサベツという年老いた夫婦のお話です。

このふたりと息子ヨハネの奇跡の出産については、クリスマスと関連して語られることはあまりありません。

しかし、ルカは**50** 節も割いて、クリスマスの話に織り交ぜてこのふたりの話を紹介します。

ルカは、四福音書の著者の中で、唯一、地上におられたイエスと実際に会ったことのない人物です。

イエスが公生涯を送られた**3** 年間、ルカはそこにいませんでした。

ですから、あらゆる出来事を目撃者の証言を検証したのです。

ルカは、実際にイエスとその家族、弟子、友人と会ったことのある人たちを訪ねました。

ルカは医者だったので、ふたりの赤ちゃんの奇跡の出生に非常に興味を持ったようです。

1-5 節で、ルカは自身の福音書が正確で信憑性があると語ります。

ルカ 1 : 1-5

1:12 私たちの間ですでに確信されている出来事については、初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、多くの人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、**1:3** 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。

1:4 それによって、すでに教えを受けられた事がらが正確な事実であることを、よくわかっていただきたいと存じます。**1:5** ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。

ルカは、「みことばに仕える者」から情報を得たことを特筆しています。

この「仕える者」とは、神のみこころをなして仕えている人々を指しています。これは大切なポイントです。

イエスが十字架上で死なれたとき、神殿の幕はふたつに裂けました。

これには非常に深い意味があります。

イエスが十字架上の死によって成し遂げられた御業を信じる者は、神に直接つながれることを意味していたからです。

代わりに神の御前に立ってくれる祭司はもう必要ありません。

つまり、新生した信徒は皆、どこでもイエスに仕える者となれるのです。清掃係でも、サラリーマンでも、パートで働いていても、会社の社長でも、神が私たちを置かれた場所で、イエスに仕えることができるのです。

ルカは、本物の生きた信仰を持つ人々から情報を得ました。

では、年老いた夫婦と息子の話を今日は3つの部分に分けてお話しします。

まず、御使いがザカリヤに告知したルカ1:5-23を学びましょう。

次に、マリヤとエリサベツの会話と、エリサベツの出産および命名です。これは、39-45節、そして、57-66節です。

最後に、ザカリヤが息子について預言する67-79節を学びます。

1. もうひとつの奇跡の出産に関する告知 (5-23 節)

ルカ1:5-7で、ルカはこの年老いた夫婦について少し紹介します。

その時代背景として、「ヘロデの時」と語ります。

これは重要な情報です。というのも、イエスのご降誕の時期とつながるからです。

ザカリヤは祭司でした。また、エリサベツも大祭司アロンの子孫です。

そして、ふたりとも正しい人だったとあります。

これは、罪がないという意味ではありません。

彼らは心から神に属することを願い、神に仕え、神の掟を守っていたという意味です。

神に仕えることがふたりの生きがいでした。

そして、「ふたりとももう年をとっていた」ともあります。

はっきりとした年齢はわかりませんが、おそらくザカリヤは90歳代、エリサベツも80歳代くらいだったと思われます。

その年齢を把握しておくのは大切です。

医学的にはふたりの出産年齢はとっくに過ぎています。

また、エリサベツは不妊だったとも記されています。

8-10節で、ルカはザカリヤが神殿で香をたいている場面を描きます。

当時のイスラエルには、祭司が24組に分かれていました。与えられた仕事に対して、祭司の数が過剰だったのです。それで、それぞれの組が毎年一週間順番に仕えるようになっていました。

そして、祭司の中でひとりだけが、祭壇で香をたく榮譽に与れました。

この榮譽ある務めに就けるのは、一生に一度だけでした。

香をたくことは、神の民が神に向かって祈りをささげる象徴でした。

それで、群衆が神殿の外で祈るために集まっていたのです。

90歳にもなる年老いた祭司が、神の神殿で一生に一度の特別な経験をしているときに、「主の使い」が突然現れます。

ザカリヤは恐怖に襲われたのも当然です。(12節)

御使いはザカリヤに「あなたの願いが聞かれたのです」と言いました。きっと長年息子が与えられるように祈ってきたけれど、実現していなかったのでしょう。

御使いは、妻のエリサベツが男の子を生むので、息子をヨハネと名付けるようにと語りました。

そして、息子の働きについて説明し、この息子が世間にどのような影響を与えるか語りました。

14-17節には、4つの重要ポイントが記されています。

1. ザカリヤと多くの人々が、この息子の誕生を喜ぶ。
2. ザカリヤの息子は、胎内にいるときから聖霊に満たされ、神の御前にすぐれた人となる。
3. ぶどう酒も強い酒も飲まない。
4. 息子はすぐれた伝道者となり、多くのイスラエルの民の心を主なる神へ向けさせる。

御使いによるすばらしい告知を受けたザカリヤは、この告知について次のように挑みました。「私は何によってそれをすることができましょうか。」つまり、ザカリヤは、この告知が本物である証拠を要求したのです。彼は御使いの言葉を疑いました。御使いは、自らを「ガブリエル」と名乗り、「神の御前に立つ」者であると言いました。そして、この知らせを伝えるように神から遣わされたと言いました。

20 節で、御使いはザカリヤに次のように語りました。

1:20 ですから、見なさい。これらのことが起こる日までは、あなたは、ものが言えず、話せなくなります。私のことばを信じなかったからです。私のことばは、その時が来れば実現します。」

そして神殿から出てきたザカリヤは、話せなくなっていました。人々は不思議に思いました。そして、ザカリヤが幻を見たのだと思いました。ザカリヤは務めを終えて帰宅しました。

24 節には、エリサベツが妊娠して 5 か月間引きこもっていたとあります。次に進む前に、ここでふたつ私たちに当てはめて考えたいと思います。

1. 長年かかって答えられた祈り。

ザカリヤは明らかに、長い間息子を求めて祈っていました。けれども実現していませんでした。90 歳代や 70-80 歳代になってからこのように祈っていたかはわかりませんが、長年そのことを祈っていたことは確かです。

そして突然、神が長年の祈りに答えて、息子を与えてくださいました。

この息子は、ザカリヤにとっても、神にとっても、イエスにとっても特別な存在です。私たちも、何か人生で実現してほしい大切なことについて具体的に祈ることがあります。しかし、そのとおりにならないと、もう実現することはないのかと思ってしまいます。私たちも、神がそのような祈りに将来いつか答えてくださって、驚くことになるかもしれません。

もう一生独身だと思ったときに結婚するかもしれませんし、子を授かるように祈ったけど与えられず、もう子どもをあきらめようと思っていたら与えられたという人もいるかもしれません。

神のみこころなら実現することを信じて励みとしてください。

あなたの人生のために神がみこころとしてくださっていると心から信じることについて、祈るのをあきらめないでください。信じ続けてください。

神は、私たち夫婦が日本を去った 1992 年に、いつかまた戻ると約束してくださいました。それは 25 年間も実現しませんでした、ついにそうになりました。

私たちは泣きながら祈りましたが、それは起こりませんでした。しかし、実現した時、それは神の時であり、神の目的とご栄光のために実現したのです。

ですから、神が祈りに答えてくださるのを待っているなら、どうか元気を出してください。

アブラハムがしてしまったように、自力で祈りに答えようとしてははいけません。

神は力強い大いなるお方ですから、私たちの祈りに不思議な方法で答えることができになります。ですから日々、聖霊と歩調を合わせて歩んでいきましょう。

2. 神のみことばを疑う。

ザカリヤは、御使いによって伝えられた神のことばを疑いました。

信じなかった結果、彼は 9 か月間話すことができませんでした。

突然声が出なくなって、筆談でしか意思の疎通が取れなくなるというのはたいへんな経験です。

きっと手話は習っていなかったでしょうから、たいへんな思いをしたでしょう。

神はザカリヤを見捨てられたわけではありません。ただ、大切なことを教えておられたのです。

それは、神のことばを信じないと、私たちや周囲の人たちのための祝福を逃してしまうということです。

私たちもザカリヤのように神に懲らしめられることがあります。そして、その懲らしめを受けた後で、神の祝福を得ます。

疑い深いトマスのことを覚えていますか。彼は、イエスが死からよみがえられたことを信じませんでした。それで、一週間以上も祝福に与れませんでした。

しかし、イエスは恵み深いお方なので、トマスのもとにも訪れてくださいました。

神のことばを疑うことは、神にお約束を守る力があることを疑うことです。

それは、私たちの力や知識のレベルへと神を引きずり下ろすことです。

それは明らかに間違っています。聖書は、神が全能であると教えているからです。

ルカ 1:37 神にとって不可能なことは一つもありません。」

ヤコブ 1 : 5-8

1:5 あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。 1:6 ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。 1:7 そういう人は、主から何かをいただけたと思っただけではありません。 1:8 そうするのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。

神はみこころならば、不可能に見えることでも必ず私たちの人生におけるみこころを成し遂げてくださいます。

私たちは神とみことばとに自らを明け渡さなければなりません。

2. エリサベツとマリヤの会話。エリサベツの息子の命名。(39-45 節、57-66 節)

エリサベツが家にこもっていたとき、いとこのマリヤが訪ねてきました。

そして、信じられないような知らせを持ってきました。

ザカリヤのところに来たのと同じ御使いガブリエルが、私のところにも来た、といったかもしれせん。

けれども、マリヤが受けた告知は少し違っていました。

奇跡は奇跡でも、まったく別のものです。

処女であるマリヤが、奇跡によって身ごもり、男の子を生むと告げられ、その子をイエスと名付けなさいと言われました。(31 節)

41 節には、マリヤがエリサベツの家であいさつをした途端に、エリサベツのおなかの赤ちゃんがおどり、エリサベツは聖霊に満たされたとあります。

42 節で、エリサベツは大声をあげました。聖霊に促されたからでしょう。そして、マリヤの身に起こった祝福を承認しました。

マリヤは 16 歳くらいの少女で、エリサベツはマリヤが尊敬する年配の女性だったことを忘れてはいけません。

マリヤは、エリサベツの言葉にきっと励まされたことでしょう。

56 節には、マリヤがエリサベツのところに 3 か月ほど滞在したとあります。

つまり、エリサベツが出産した時に、マリヤはその家にいたこととなります。(36 節)

では、次に進む前に、私たちに役立つ教えについて考えましょう。

適用

神は、年齢のずいぶん離れたふたりの女性を3か月間いっしょに過ごして励ましあうようになさいました。

ふたりとも奇跡によって妊娠中で、神の導きによっていっしょに過ごすことができたのです。これはとても素晴らしいことだと思います。

うれしい出来事でも悲しい出来事でも、それを誰かと分かち合えるのはよいことです。

生きているのがつらいとき、そのつらさを分かってくれる人に打ち明けられたら楽になります。

新約聖書は、困難なときに互いを支えあうことについて随所で勧めています。同様に、うれしいときとともに喜ぶことも勧めています。

2週間前、マークジョン・ヤップさんはボクシングの試合で勝ちました。私たちはその勝利をともに喜ぶことができます。今日はマークジョンさんはフィリピンのご両親のもとに帰省中です。

私たちは、大きな試練の中を通っている人を支え、慰めようとしたことがあります。

私は牧師ですから、そのような奉仕に携わる機会がたくさんあります。

神の民の一員として、私たち全員が、ともに喜び、互いに励ましあう働きにかかわる必要があります。

努めてその両方をするようにしていただきたいと思います。

悩みや問題を抱えている人、うつ状態になっている人には近づかないようにしてしまいがちですし、他の人の祝福をいっしょに喜べないこともあります。

ですから、マリヤとエリサベツの模範に倣いましょう。

1:58 近所の人々や親族は、主がエリサベツに大きなあわれみをおかけになったと聞いて、彼女とともに喜んだ。

エリサベツは出産し、神が与えられたユダヤ人の慣わしに則って、男の子は8日後に割礼を受けました。

創世記 17:10 次のことが、私とあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべき私の契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。

ユダヤ人の慣習に従うなら、この子の名はザカリヤになるはずでした。

しかし、エリサベツは聖霊に導かれ、息子の名は「ヨハネ」だと言いました。

息子をヨハネと名付けようとするエリサベツに、親族は疑問を呈しました。そして、父親を巻き込んで、最終的な判断をゆだねました。

ザカリヤはそれまで9か月間、話すことができませんでした。

ザカリヤは、書き板に、「彼の名はヨハネ」と書きました。

すると、ザカリヤは話せるようになりました。

20 節の御使いの言葉が実現したのです。

1:20 ですから、見なさい。これらのことが起こる日までは、あなたは、ものが言えず、話せなくなります。私のことばを信じなかったからです。私のことばは、その時が来れば実現します。」

その後、割礼と命名の儀式に出席していた人々は恐れしました。そして、うわさが広まり、ヨハネがどういう子になるのかと人々は不思議に思いました。

3. ザカリヤの預言 (67-79 節)

話すことができなかつた9か月間のあとで、聖霊に満たされた状態の人がいう言葉は聞く価値があるでしょう。

では、ザカリヤが 68-79 節で語った言葉を検証してみましょう。
この預言には、3 つの重要なポイントが含まれています。

1. この預言は神からのもので、未来について語るものである。(67 節)
ザカリヤは聖霊に満たされていた、とあります。また、御使いの言葉を信じなかったことについての懲らしめから解かれた状態です。
2. この預言は、来たるべきユダヤの救い主イエス・キリストに関するものである。(68-75 節)
ここで注目すべき重要ポイントは、すべてが過去形で語られていることです。ザカリヤは、まだ起こっていないことについて、すでに起こったと語っています。そんなことができるのは神のみです。救い主イエス・キリストが、ご自身の民のもとに来られ、贖われたとあります。贖うとは買い戻すという意味です。イエス・キリストをとおして、神はご自身の民を買い戻されたのです。私たちが神の子となれる唯一の方法は、イエス・キリストがなしてくださった御業を信じることです。その御業は、私たちが神のために買い戻すため、代価を支払うというものです。私たちが聖書学校でよく歌っていた賛美歌があります。それは、ファニー・クロスビーが書いた古い賛美歌です。ここで、一番と三番の歌詞を引用します。

贖いの御業を告げ知らせよう
小羊の血によって贖われた
主の尽きないあわれみによって贖われた
私は永遠に神の子

尊い贖い主を思う
朝に夕に主を思う
歌わずにはいられない
主の愛こそ わが歌

ここでザカリヤは、すべての預言者および、先週お話しした創世記 3 章に登場する救い主に関する預言を支持しています。また 72-73 節でザカリヤは、来たるべき救い主イエスがアブラハムに与えられた契約の成就であることを指摘しています。アブラハムに対する契約については先週お話ししたので、ここでは割愛します。

エレミヤ書 31 : 31-34 にあるエレミヤに対する約束は今日の個所と深く関連しています。

31:31 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。 31:32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ—— 31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 31:34 そのようにして、人々はもはや、『【主】を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らが見な、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——【主】の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

3. この預言は、救い主の道を備える人物に関する預言でもある。それは、ザカリヤの子、バプテスマのヨハネである。(76-80節)

ここには、バプテスマのヨハネについて4つのことが明らかに預言されています。

まず、ヨハネが「いと高き方の預言者」となることです。

イザヤ、エレミヤ、ホセア、アモス、ミカなど旧約時代の預言者は大いに神に用いられましたが、生まれたばかりの赤ちゃんのヨハネが後に「いと高き方の預言者」と呼ばれるようになるというのは、驚くべきことです。

次に、この預言者は、「救い主イエスの道を備える」ということです。神が大きな働きをなさるとき、神はあらかじめ状況や人を不思議なかたちで備えられます。

この預言者は、イエスの働きのために道を備えるのです。

教会史の中で私が非常に興味深いと考えるのは、ローマ帝国が栄えていた時代にイエスをお送りになることを神が選ばれたことです。

福音が広まるのに大きく貢献したのは、共通語と街道網をはじめとする種々の条件です。

神は、預言者ヨハネをとおして、イエスのために道を備えられました。

では最後に、私たちの信仰生活に役立つ教えについてもうひとつ考えましょう。

適用

私たちはバプテスマのヨハネのような重要人物ではないかもしれませんが、クリスマスにイエスについて伝えるメッセージは私たちにもあります。

そのメッセージが重要です。

ですから、私たちは、神が人々の心を備えてくださって、福音のメッセージを受け入れることができるようにと祈らなければなりません。

マタイ 13 : 1-23 に登場する種をまく人のたとえ話を思い出してください。

良い地に落ちた種が多くの実を結びました。

良い地とは、心を指します。

私たちは、神が私たちの心を整えてくださり、イエス・キリストにある救いを求めている人々にとって祝福としてくださるようにと祈る必要があります。

来週は大切な日、クリスマス・イブです。周囲の人をみんな誘ってきてください。そして、心が整えられるように祈るのを忘れないでください。

私たちが祈るなら、神は人の心に働くことがおできになります。